

# 感染症定期報告感染症別文献一覧表

報告文献別一覧表(医療機器) (平成23年4月1日～平成23年9月30日)

ID	感染症(PT)	出典	概要
1	E型肝炎	Am J Trop Med Hyg. 84(2011)647-649	インドにおけるブタ飼育者のE型肝炎ウイルス(HEV)感染に関する報告。インドのペロールの養豚場において、ブタ102例及びブタ飼育者34例の血清を調査したところ、ブタ2例においてHEV-RNAが検出された。飼育者からHEV-RNAは検出されなかったが、抗HEV抗体陽性率は94.1%であり、コントロールとしたペロール郊外と都会市民の陽性率より有意に高かった。ブタ飼育者の抗体陽性率が高いことは、ブタからのHEV感染が起こる可能性を示唆している。
2	E型肝炎	Epidemiol Infect. 139(2011)361-371	スウェーデンにおけるE型肝炎ウイルス(HEV)の分子疫学に関する報告。1993年から2009年にヨーロッパ内で感染した17例がスウェーデンで確認され、そのうちHEV-RNAが検出されたのは9例で、うち8例はジェノタイプ3であった。ジェノタイプ3について系統学的な解析を行った。スウェーデン国内の養豚場のブタ63例と野生のイノシシ13例から得られたHEVと比較したところ、ヒトのHEV株には、同地域のブタとイノシシのそれぞれのHEV株に関連性が認められた。この結果より、スウェーデンでのヒトのHEV感染は動物由来感染症である可能性が示唆された。
3	E型肝炎	J Clin Virol. 50(2011)175-176	ドイツにおけるE型肝炎ウイルス(HEV)ジェノタイプ3感染の症例報告。熱帯諸国で大流行するHEV感染は大部分がジェノタイプ1又は2であり、対照的にジェノタイプ3や4は動物からヒトへ感染して散発的な症例を起こすとされている。2008年、ドイツにおいて下痢、嘔吐及び高いALT値を示して搬送された5カ月の小児が、HEV遺伝子型3の急性感染であることが判明した。これはドイツでの最初のHEV小児感染症例である。
4	E型肝炎	Vector-Borne and Zoonotic Diseases. 10(2010)765-770	中国の家畜が保有するE型肝炎ウイルス(HEV)に関する報告。HEVの保有率を検討するために、中国国内の26の行政区から得たブタ1967例、ヤギ700例、ウシ912例の血清を調査した。その結果、ブタでは82.2%に抗HEV抗体陽性が確認されたが、ヤギとウシの陽性率はそれぞれ10.4%及び28.2%であった。HEV抗原については、ブタ1.9%、ヤギ1.6%、ウシ0.8%が陽性であった。そのうち、ヤギ及びウシは全てHEV-RNA陰性であったが、15のブタ検体でHEV-RNAが検出され、全てジェノタイプ4であった。本研究により、中国の家畜、特にブタでHEV感染が広範囲に広がっていることが示された。
5	E型肝炎	週間医学のあゆみ. 234(2010)1131-1136	日本国内の動物へのE型肝炎ウイルス(HEV)分布に関する報告。HEVは途上国において主に飲料水を介して感染するが、日本では汚染された食品、家畜を介した経口感染が報告されている。疫学調査によりブタの抗HEV抗体陽性率は高いことが報告され、ブタ、ラット、イノシシ及びシカでジェノタイプ3、4のHEV-RNAが検出されている。
6	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Plos Pathogens 7(1); e1001257; 2011	エアロゾル化したプリオンの感染性についての報告。同系交配、異種交配の野生型マウス及びPrP <sup>C</sup> を過剰発現するtga20トランスジェニックマウスをエアロゾル化したプリオンに曝露したところ、効率的なスクレイピー発症が観察された。神経で選択的にPrP <sup>C</sup> を発現するNSE-PrPトランスジェニックマウスや、Bリンパ球、Tリンパ球、NK細胞、濾胞性樹状細胞又は補体を欠くマウスにもエアロゾル化プリオンに対する感受性があった。また、感染マウスの脳に含まれるPrP <sup>Sc</sup> の注入もスクレイピーを発症させた。プリオンのエアロゾル感染は効率が高く、リンパ器官での増殖は必須でなく、中枢系に直接侵入する可能性が考えられる。
7	インフルエンザ	Acta Virologica. 54(2010)113-118	A型インフルエンザウイルスH1N1におけるHA遺伝子の自然淘汰性に関する報告。ヒト又はブタより得られた260のA/H1N1ウイルスのHA1遺伝子コード領域について、それぞれのアミノ酸の非同義置換・同義置換率を求め、自然選択性を調査した。その結果、ヒトウイルス及びブタウイルスについてそれぞれ4つ及び2つの選択性配列が検出された。これらのサイトは、宿主免疫系から免れるための抗原エピトープの変化に関与している可能性がある。

ID	感染症(PT)	出典	概要
8	インフルエンザ	Emerging Infectious Diseases. 16(2010)1162-1164	中国のブタにおけるインフルエンザウイルス再集合の報告。2006年12月から2009年2月にかけて、中国国内のブタ3546例を対象として検査を行ったところ、A型インフルエンザウイルスH1N1亜型、H1N2亜型、H3N2亜型が検出された。分離されたウイルスについて系統分析及び抗原分析を行った結果、H5N1亜型、H9N2亜型の鳥インフルエンザウイルスとの遺伝子再集合が検出された。ブタインフルエンザウイルスを保有するブタが鳥インフルエンザに感染することにより、体内で再集合が生じたと推察された。
9	インフルエンザ	The Pig Site. Feb 17, 2011	香港におけるブタインフルエンザウイルスの報告。2010年11月から2011年1月に、香港の上水の屠殺場でブタインフルエンザウイルス検査が行われた結果、7例のブタがインフルエンザウイルス(H1N1)に陽性となったが、ウイルスの再集合は確認されなかった。
10	インフルエンザ	Veterinary Microbiology. 146(2010)340-345	ブタインフルエンザウイルス(SIV)抗体を保有するブタに対するトリインフルエンザウイルス(AIV)の感染性に関する報告。17例のブタに対し、H4N6、H5N2又はH7N1のAIVを接種させたところ、15例で4～6日後にAIV排出が起こり、16例でAIV抗体産生が確認された。一方で、事前にH1N1又はH3N2のSIVを接種したブタ29例では、28例でAIV接種後のAIV排出が起きなかった。この結果より、ブタはSIVに感染することで、AIVに対する抵抗を獲得することが示唆された。
11	インフルエンザ	あいみっく. 30(2009)2-5	インフルエンザの治療戦略に関する報告。2009年8月時点でベトナムでは111例(死亡56例)のトリインフルエンザウイルスH5N1感染が報告されている。ベトナムにおいてH5N1感染により入院した29例の臨床像を調査したところ、発症から入院までの平均日数は6.9日であり、死亡率の高さは受診の遅れが一つの要因と考えられた。また、ブタインフルエンザH1N1により多数の死亡例が出たメキシコにおいても、貧困層の受診遅延が原因であった可能性が考えられる。早期診断・早期治療体制の整備が、世界のインフルエンザ治療に対する重要課題である。
12	ウイルス感染症	<a href="http://www.dpi.nsw.gov.au/agriculture/livestock/horses/health/general/nervous">http://www.dpi.nsw.gov.au/agriculture/livestock/horses/health/general/nervous</a>	オーストラリアにおけるウマのフラビウイルス感染の報告。2011年2月より、オーストラリアのニューサウスウェールズ州においてウマが異常な神経症状を発現した報告が増加している。検査の結果、これらの症例が蚊に媒介されたフラビウイルス感染によるものと示された。オーストラリアの雨期には昆虫の発生増加により感染リスクが上昇すると推測される。
13	口蹄疫	OIE 2011 April 18	韓国における口蹄疫:発生日 2010年11月26日、最初の確定日 2010年11月29日、報告日 2011年4月18日、原因 口蹄疫ウイルス O型。2011年4月16日に慶尚北道で口蹄疫のアウトブレイクが発生した。ブタについて、感染の疑い67頭、確定例は6頭、死亡0頭、屠殺6頭であった。
14	口蹄疫	OIE 2011 April 7	中国における口蹄疫:発生日 2010年2月22日、最初の確定日 2010年2月28日、報告日 2011年4月7日、原因 口蹄疫ウイルス O型。2011年3月29日に貴州で口蹄疫のアウトブレイクが発生した。ウシ、ヒツジ、ブタについて、それぞれ、感染の疑い252頭、7頭、421頭、確定例は87頭、0頭、4頭、死亡12頭、0頭、2頭、屠殺240頭、7頭、419頭であった。
15	口蹄疫	OIE 2011 July 21	中国における口蹄疫:発生日 2010年2月22日、最初の確定日 2010年2月28日、報告日 2011年7月21日、原因 口蹄疫ウイルス O型。2011年7月13日に貴州で口蹄疫のアウトブレイクが発生した。ウシ、ブタ、ヒツジについて、それぞれ、感染の疑い73頭、124頭、197頭、確定例は46頭、78頭、9頭、死亡0頭、屠殺73頭、124頭、197頭であった。

ID	感染症(PT)	出典	概要
16	口蹄疫	OIE 2011 January 11	ブルガリアにおける口蹄疫:発生日 2011年1月4日、最初の確定日 2011年1月4日、報告日 2011年1月11日、原因 口蹄疫ウイルスO型。2011年1月4日にBURGASで口蹄疫のアウトブレイクが発生した。感染の疑い例ウシ194頭、ヤギ149頭、ヒツジ117頭、ブタ72頭、確定例ウシ1頭、ヤギ12頭、ヒツジ14頭、ブタ8頭、死亡例0頭、屠殺例0頭であった。
17	口蹄疫	OIE 2011 June 1	台湾における口蹄疫:発生日 2011年5月16日、最初の確定日 2011年5月16日、報告日 2011年6月1日、原因 口蹄疫ウイルス O型。2011年5月16日に彰化で口蹄疫のアウトブレイクが発生した。ブタについて、感染の疑い8,520頭、確定例は10頭、死亡0頭、屠殺0頭であった。
18	口蹄疫	OIE 2011 May 17	台湾における口蹄疫:発生日 2011年5月6日、最初の確定日 2011年5月6日、報告日 2011年5月17日、原因 口蹄疫ウイルス O型。2011年5月6日に新竹で口蹄疫のアウトブレイクが発生した。ブタについて、感染の疑い123頭、確定例は14頭、死亡0頭、屠殺0頭であった。
19	口蹄疫	ProMED-mail 20110218.0537	ベトナムにおける口蹄疫:発生日 2011年1月31日、確定日 2011年2月16日、報告日 2011年2月17日、原因 口蹄疫ウイルス。2011年1月31日にLONG ANで口蹄疫のアウトブレイクが発生した。ブタについて、確定例188頭、死亡例86頭であった。
20	口蹄疫	ProMED-mail 20110302.0686	中国における口蹄疫:発生日 2011年2月19日、最初の確定日 2011年2月28日、報告日 2011年2月28日、原因 口蹄疫ウイルス O型。2011年2月19日に新疆ウイグル自治区で口蹄疫のアウトブレイクが発生した。ブタについて、感染の疑い3,941頭、確定例は275頭、死亡0頭、屠殺3,941頭であった。
21	細菌感染	MMWR. 60(2011)401-405	ブタのヘッドチーズに関連したリステリア症の報告。アメリカのルイジアナ州公衆衛生局は、2010年1～6月にリステリア症14例の報告を受けた。このうち8例の血液から、同一菌株と推定されるListeria monocytogenesが分離された。疫学及び環境検査により、3例が同一のブタヘッドチーズを摂取していたことが判明し、製品の培養検査の結果リステリア菌が分離され感染源として特定された。ルイジアナ州は当該ヘッドチーズと関連製品の回収を行った。
22	細菌感染	The Pig Site. Feb 22, 2011	カナダにおけるアクチノバチルス症の報告。カナダのマニトバ州において、Actinobacillus equuliへの感染により、2ヶ月間に300匹以上の育成雌豚が死亡した。最近では北アメリカのブタにおいて2番目の事例であった。
23	サルモネラ	The Pig Site. Jun 23, 2011	ブタから感染する多剤耐性サルモネラ菌に関する報告。新型単相性サルモネラ菌による感染症について、ブタから人への感染との関連が指摘されている。ブタが保有する単相性サルモネラ菌の多くが多剤耐性を持ち、セファロスポリンに対する耐性を持つ菌も確認された。政府の調査により、イギリスのブタにおいて28%がサルモネラ菌陽性であり、このうち92%が抗生物質耐性を示すとみられることが報告された。
24	炭疽	OIE 2010 September 28	コロンビアにおける炭疽:発生日 2010年4月27日、最初の確定日 2010年5月23日、報告日 2010年9月28日、原因 炭疽菌。2010年4月27日にラ・グアヒーラで炭疽のアウトブレイクが発生した。感染の疑い例ヒツジ12頭、ブタ1頭、確定例ヒツジ1頭、死亡例ヒツジ1頭、屠殺例0頭であった。

ID	感染症(PT)	出典	概要
25	炭疽	ProMED-mail 20110612.1794	インドにおける炭疽の報告。インドのオリッサ州において、炭疽のアウトブレイクが発生し、小児を含む12例の感染が報告された。感染があったのは、人口120人のSanaguchuka村で、48人が住民 Kutia Kondh の出身者である。腐敗したウシやブタの肉を食べて感染したと見られている。
26	炭疽	ProMED-mail 20110616.1830	インドにおける炭疽の報告。インドのオリッサ州において、各地の村で、炭疽が急速に拡大している。Sanaguchuka村の報告の10日後には10か所以上の村に広がった。血液検査により、これまでに25例の感染が判明している。
27	炭疽	ProMED-mail 20110619.1871	インドにおける炭疽の報告。インドのオリッサ州において、MKCG大学病院は新たにMahulpada村在住の7例の感染疑い患者を受け入れたと発表した。
28	炭疽	ProMED-mail 20110620.1887	インドにおける炭疽の報告。インドのオリッサ州MKCG大学病院において、炭疽感染疑いで治療中の1例が死亡したと報告された。
29	炭疽	ProMED-mail 20110622.1908	インドにおける炭疽の報告。炭疽感染が拡大しているインドのオリッサ州について、州政府当局は20日、カンダハマル県への医療チームの派遣を要請した。40歳の男性1名が炭疽感染により死亡した疑いが持たれていることがきっかけとされた。
30	鳥インフルエンザ	Appl Environ Microbiol. 77(2011)4981-4985	鳥インフルエンザウイルスの感染性の持続に関する報告。鳥インフルエンザウイルスH4N6、H5N1及びH6N8と、ヒトインフルエンザウイルスH1N1について、湖沼堆積物、カモ糞便、カモ肉におけるウイルス感染性の持続性を0°C~30°Cにおいて調査した。ウイルス感染性を90%失うまでの期間をT-90として比較したところ、全てのウイルスについて、ウイルス持続性は湖沼堆積物で最も高く、糞便、カモ肉の順で低い傾向が認められた。また、温度が低いほど持続性は高かった。
31	鳥インフルエンザ	ProMED-mail 20110125.0306	香港における鳥インフルエンザの報告。 [1] 元朗にて死亡して発見されたシキチョウ1羽について、検査の結果H5鳥インフルエンザウイルス陽性だったと報告された。 [2] 死亡した野鳥に行われている鳥インフルエンザサーベイランスにより、大澳で死んだハシブトガラス1羽がH5N1陽性と判明した。
32	鳥インフルエンザ	ProMED-mail 20110209.0443	香港における鳥インフルエンザの報告。2011年2月7日、香港の農業漁業監督庁(AFCD)は大澳で死亡して発見された1羽のアヒルが、検査の結果H5N1鳥インフルエンザウイルス陽性であることが確認されたと発表した。
33	鳥インフルエンザ	ProMED-mail 20110306.0742	香港における鳥インフルエンザの報告。2011年3月4日、香港の農業漁業監督庁(AFCD)はランタオ島で死亡して発見された1羽のガチョウが、検査の結果H5N1鳥インフルエンザウイルス陽性であることが確認されたと発表した。

ID	感染症(PT)	出典	概要
34	パルボウイルス	ProMED-mail 20101122.4226	中国における新型パルボウイルスtype4(PPV4)に関する報告。2006年から2009年にかけて中国で収集された573例のブタ検体を調査したところ、PPV4の感染率は調査した臨床サンプルで2.09%(12例)であり、健康なブタでは0.76%(1/132例)であった。2009年以前に採取した検体からはPPV4は検出されなかった。検出されたPPV4遺伝子は米国で分離されたウイルスと99%以上の相同性を有していた。このことから、中国におけるPPV4は2009年以降に米国から輸入されたものであることが示唆された。
35	レンサ球菌感染	ProMED-mail. 20110519.1517	ベトナムにおけるブタレンサ球菌感染の報告。ベトナムのホーチミンの病院においてブタレンサ球菌感染患者が1例報告され、2011年の感染例が11例となった。患者は57歳であり、ブタの血を摂取したことが原因とされた。高熱と臓器障害を示したが、回復傾向を示したと報告された。
36	レンサ球菌感染	バムサ会誌. 22(2010)7-12	ブタ及びヒトにおけるブタレンサ球菌感染に関する報告。国内外での調査より、子ブタで30~40%、成ブタで60%ほどがブタレンサ球菌を保菌していると推定されている。ブタレンサ球菌がヒトに感染した場合は主に髄膜炎が発症するが、劇症型となり死亡する例も報告されている。2010年5月時点で世界で500例以上のヒト感染が確認されており、2005年には中国において39名が死亡するアウトブレイクが発生した。ヒトへは保菌するブタの生肉を介して感染するため、感染防止には十分な加熱調理や調理器具洗浄が重要である。
37	レンサ球菌感染	PLoS ONE. 2011; 6: e17943	ベトナムの食肉処理場のブタが保有するブタレンサ球菌に関する報告。2006年9月から2007年11月の期間、ベトナムの食肉処理場よりブタ咽頭扁桃542例を採取し、ブタレンサ球菌の有無を調査した。その結果、41%よりブタレンサ球菌が検出され、血清型2型が最多であった。パルスフィールドゲル電気泳動(PFGE)及びMultiple Locus Sequencing Typing (MLST)の結果、以前ベトナムにおいて報告された髄膜炎症例と、1998年と2005年に中国において起こったアウトブレイクとの関連が示唆された。食肉処理場においては厳格な衛生管理が求められる。
38	インフルエンザ	ProMED-mail 20101109.4062	ナミビアにおけるインフルエンザ(A/H1N1): ケートマンスフープにおいて学校生徒1,300人にインフルエンザ様症状がみられ、うち6例で血液検査を行ったところ、5例がインフルエンザウイルス(H1N1)陽性であった。
39	インフルエンザ	ProMED-mail 20101231.4612	ロシアにおけるインフルエンザ(A/H1N1): サラトフの学校において、2010年12月21日から28日にかけて57人中12人がインフルエンザ(A/H1N1)診断が確定し、ウイルスによる呼吸器感染発生率が高いため学級閉鎖が行われた。また、サラトフでは2010年のインフルエンザ罹患率が2歳以下で6.5%、7-14歳で2.4%と、どちらも前年までの罹患率平均より高かった。
40	旋毛虫症	Zoonoses and Public Health. 57(2010)e116- e123	米国におけるブタの旋毛虫症に関する報告。米国メリーランドの農場で飼育されているブタ49例及びブタの死骸3例について、組織中の旋毛虫及び血清中の抗体の有無を調査したところ、34%に感染が確認された。全てのブタを農場から移し、6、12、18ヵ月後に農場周辺で捕獲した動物(フクロネズミ、アライグマ)を検査したところ、それぞれの時期における感染率は41、10、0%であった。旋毛虫症はネズミからブタへ、ブタからヒトへという感染経路を辿ると言われているが、今回の結果より、感染ブタを取り除いた場合、残った動物には感染が確認されなかった。